

課程博士論文審査結果（要旨）

天野 拓

1. 学位申請論文名

「普遍主義」から見た日本の介護保険制度の再構築

2. 学籍番号・氏名

1385001 今任 啓治

3. 審査結果（要旨）

下記の点を中心に、本論文が「博士（アドミニストレーション）の学位授与の基準」（平成13年12月13日研究科委員会設定）を満たしているかについて審査した。

- 1) 外部評価に耐えうるような水準の学位論文であること
- 2) 学位論文の分量（120,000字以上）
- 3) 原則として、一か国語以上の外国語文献を参照していること
- 4) 学界への寄与、研究の新奇性・独創性、並びに資料を丹念に手堅く渉猟・検討し事実を単に記述するだけではなく、論理的かつ系統的に説明できること。

まず1) についてであるが、本論文は、過去の関連文献を網羅的に渉猟している点で、また、しばしば部分的に論じられがちな介護保険制度を「普遍主義—選別主義」という分析軸からより包括的に考察しようとしている点で、我が国の先行業績に劣らない内容のものであり、外部評価に耐えうることができると判断する。

2) については、本論文は総字数138,428字であり、論文の分量としては十分であり、学位論文の基準を充たしている。

3) については、外国語文献、具体的には英語文献(John Creighton Campbell, Naoki Ikegami and Soonman Kwon, "Policy Learning and cross-national diffusion in social long-term care insurance: Germany, Japan, and the republic of Korea", *International Social Security Review* (October 2009))を参照して論述しており、学位論文の基準を充たしている。

4) については、普遍主義—選別主義という分析枠組みから理論的構築につとめている点で、また、それに基づき現代における介護保険制度の変容を包括的に分析している独創性という点で学界に少なからず新知見を与えるものであり、学位論文の基準を充たしている。

したがって、全体として本論文が、明らかに学界の発達に少なからず寄与し、さらに今後も学界に貢献しうる論者の力量を実証するに足る労作であることは明白である。

以上のことより、本論文は学位（アドミニストレーション）の授与にふさわしいと判断した。